

2025年1月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは2月8日(土)で、テーマは「くらべてみよう鳥の体 くちばし編」です。ぜひご参加ください。2月3日(月)の8時30分から電話での申し込みを開始します。市民スタッフの皆さま、次回の下見は2月2日(日)です。

1月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→カッパ像前→手賀沼遊歩道→水生植物園で解散
- 観察日時/天気：2025年1月11日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加人数：9名(大人7名、子ども2名)
- 市民スタッフ：4名(小泉伸夫、石原直子、伊東茂子、北村章子)
- 博物館友の会：1名(古澤紀元)
- 鳥博職員：1名(脇水徳之)

— 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものも含む。

【鳥類】カモ科：マガモ、カルガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：クイナ、バン、オオバン/カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ/ミサゴ科：ミサゴ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/エナガ科：エナガ/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ツグミ科：シロハラ、ツグミ/ヒタキ科：ジョウビタキ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン

家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【爬虫類】ニホンカナヘビ(はやにえ)、ミシシippアカミミガメ(死骸)

【昆虫】カメムシ目：ヨコヅナサシガメ(幼虫)、ビワコカタカイガラモドキ

【草の花】キク科：セイヨウタンポポ/シソ科：ホトケノザ/アブラナ科：ナズナ

【木の花】ツバキ科：ツバキの仲間

【菌類】サルノコシカケ科：ヒイロタケ

2025年1月の観察アルバム



今回のテーマは「鳥インフルエンザから鳥たちを守ろう」でした。

観察会当日は快晴で風が少し吹いていましたが、木の枝にとまる小鳥が多く見られ、カワセミの捕食やモズが縄張りを巡回する様子も観察できました。その一方で、手賀沼水面にヨットが出ていた関係で、観察できた水鳥の種類が少なく残念でした。



今月の案内人
小泉 伸夫



①手賀沼カッパ像の上にいるアオサギ。沼の奥でコブハクチョウも見られた。



②水面を複数羽で泳いでいたカルガモ。手賀沼では一年を通して観察できる。



③カッパ像の周りで泳いでいたオオバン。額板が小さいことから若い個体。



④遊歩道の木に複数羽で群れていたエナガ。眉の黒色がはっきりしていた。

歩いたルートと観察した生き物



⑤栈橋から勢いよく水に飛び込んで小魚のモツゴを捕まえていたカワセミ。



⑥遊歩道脇の地面に降りていたアオジ。小型の植物の種を探して食べていた。



⑦ススキ原で見られたホオジロのメス。目の後ろの模様が淡褐色なのが特徴。



⑧モズのはやにえとなったニホンカナヘビ。上半身は食べられていた。

今月の鳥 鳥インフルエンザの検査優先種

環境省では、冬鳥が渡るシーズンの前にウイルス検査を行う鳥の優先順(1～3)を指定しています。

優先種1には、大陸から渡るカモやツル、カイツブリ、水鳥をよく捕食する猛禽類が含まれています。

優先種2と3には、優先種1以外のカモ類や、水鳥と生活を共有する鳥やカラスが含まれています。

冬の野鳥観察では、離れた場所から野鳥を観察し、排泄物や死体には直接接触しないことが大切です。鳥インフルエンザを正しく恐れ、正しく防ぎましょう。



検査優先種2指定のマガモ



検査優先種3指定のカワウ